

地域公共交通の大切さと、 それを地域で考える必要性について ～河北町の公共交通の現状とこれから～

大野 悠貴

弘前大学大学院地域社会研究科 客員研究員
モビリティプロモーション 代表
国土交通省東北運輸局 地域公共交通東北仕事人

高齢者の免許返納による健康リスク

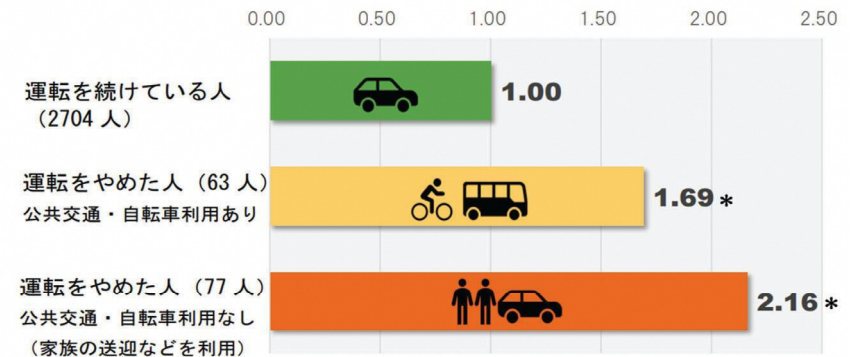


図 運転継続・中止と公共交通・自転車利用有無別 要介護認定リスク

筑波大学報道発表、市川政雄「運転中止で要介護リスクが2倍」より借用

免許返納に伴う「ジレンマ」

免許返納しない場合



返納せず運転継続



事故リスク増大

免許返納した場合



返納して運転中止



健康リスク増大

事故リスクか、健康リスクか、どちらかを
受け入れなければならないジレンマ状況が発生

ジレンマの解消が必要

既往研究による免許返納の「真実」

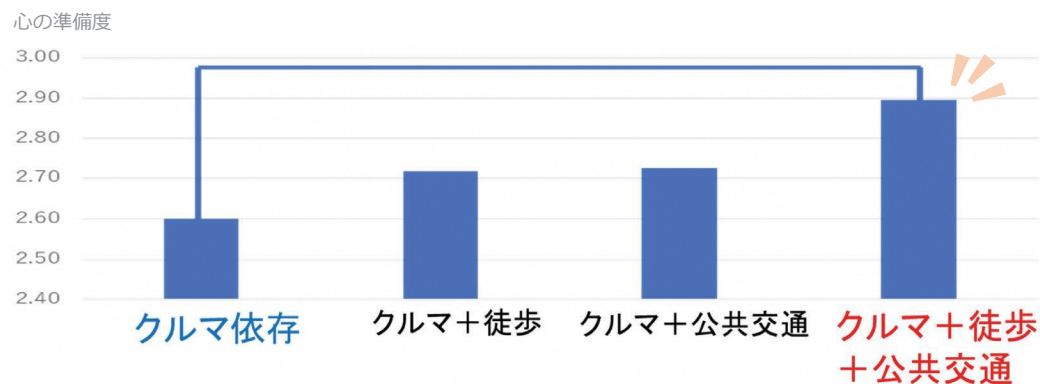
◆公共交通が利用できる環境であっても、
公共交通の使い方がわからず、免許返納後
すぐに公共交通を利用できない

運転免許返納者へのアンケートとインタビューから得られた免許返納意思決定プロセスの抽出（榎本ら 2022）

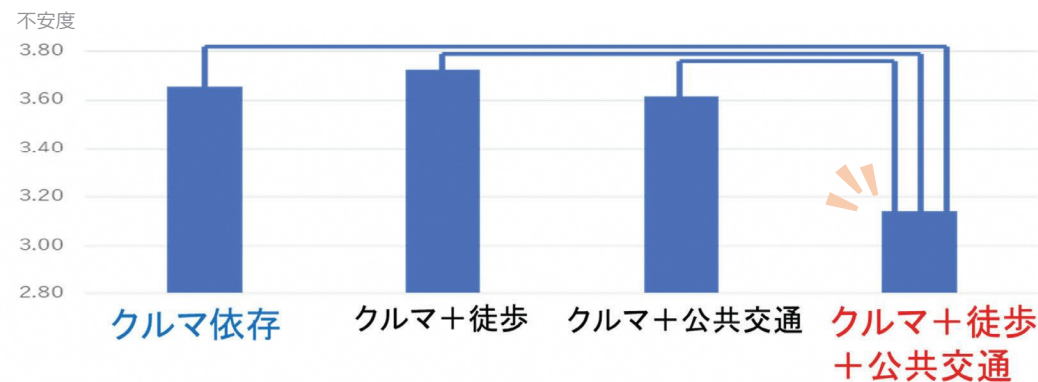
◆高齢者ほど行動を変えづらく、若いとき
から行動を変える取り組みが重要

健康に配慮した交通行動誘発のための学術的研究（谷口 2018）

免許返納に対する“心の準備度”



免許返納することへの“不安”



公共交通を利用できる意義

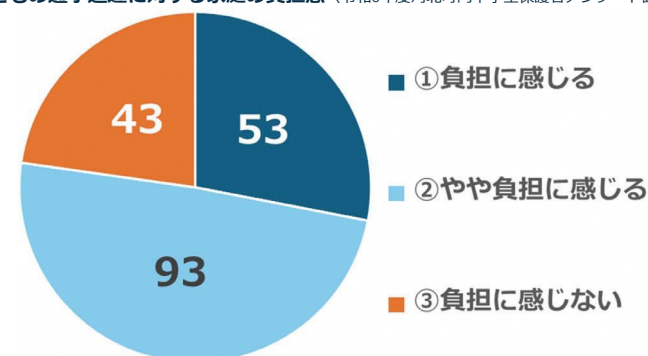
- ◆クルマ社会だからこそ、いろいろな移動手段を使えることが大切
- ◆認知機能検査や運転技能検査に通らず、予期せぬ形で突然、運転免許を手放さなければならぬかもしれない

免許を返納する前から、公共交通をはじめいろいろな移動手段を使う準備運動が必要

“子どもの移動”に関する問題

◆保護者の送迎負担

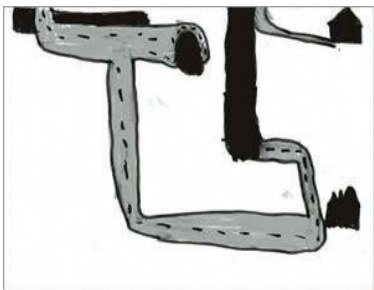
子どもの通学送迎に対する家庭の負担感（令和4年度河北町内中学生保護者アンケート調査より）



子どもの“地域理解”への影響も？

◆子どもに通学路の風景を描かせた事例（イタリア）

クルマ通学の子ども



徒歩・公共交通通学の子ども



Germana Pignatelli/ Maurizio Difonzo : I Nvavi Pedoni An Italian tool to improve pedibus and pedestrian roots
ECOMM2016, Athens発表資料

子どもが公共交通を利用できる意義

◆子どもの移動環境の違いは、子どもの成長に重要な意味を持つ「体験格差」につながる

- 体験格差とは、学校外で行われる体験機会の格差のこと
- 自立的な社会体験は、子どもの自己認識（自尊心、自己概念、自己効力感等）や社会性、学習意欲を向上させる

**公共交通をはじめいろいろな移動手段で
子どもの移動自由性を確保することが必要**

地域で公共交通を活用する事例

◆金川町・田園町住民コミュニティバス「さわやか号」 （福島県会津若松市）



「さわやか号定例ランチ会」 （福島県会津若松市）

◆毎月第3木曜日、住民みんなで「さわやか号」に乗って、 街中までおでかけをしてランチをする

◆「さわやか号」を利用したライフスタイルを体験できる場

住民同士の交流の場として
ランチ会で、久しぶりに友人に再会
できた人も！

おでかけする機会づくりとして
認知症等の予防にも貢献している？



10/21定例ランチ会の様子

出典： <https://www.city.asawakamatsu.fukushima.jp/doc/201410300063/files/mayyou.pdf>

第二層協議体による“移動の問題”への取り組み

(愛媛県八幡浜市双岩地区 第二層協議体「福寿草」)

- ◆公共交通を利用した外出体験をキッカケに、**住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域課題として考えるように**

第二層協議体は、地域包括ケアシステム構築に向けて日常生活圏域単位で設置される、**地域の支え合い・生活支援活動推進の場**



住民自ら、公共交通を運営するという選択

- ◆**にこにこ日土** (愛媛県八幡浜市日土地区)

◦NPO法人を立ち上げ、住民自ら運行 (2008年～)



まとめ

- ◆それぞれの立場で、できる範囲で、公共交通を利用したり・活用したりすることは、**自分にとっても、地域にとっても良さそう**

- ◆「お金を出す」というのも、選択肢の1つ

◦例：青森県鰺ヶ沢町深谷地区
1世帯当たり月1,000円、バスの回数券を購入していた…

移動の問題は、皆さんの「生き方」の問題

- ◆今住んでいるこの地域で、
「どのようなおでかけをしたいのか？」
「どのように暮らしていきたいか？」
・・・が、問われている

**行政・交通事業者が答えることはできない
住む人・使う人だから、答えることができる**

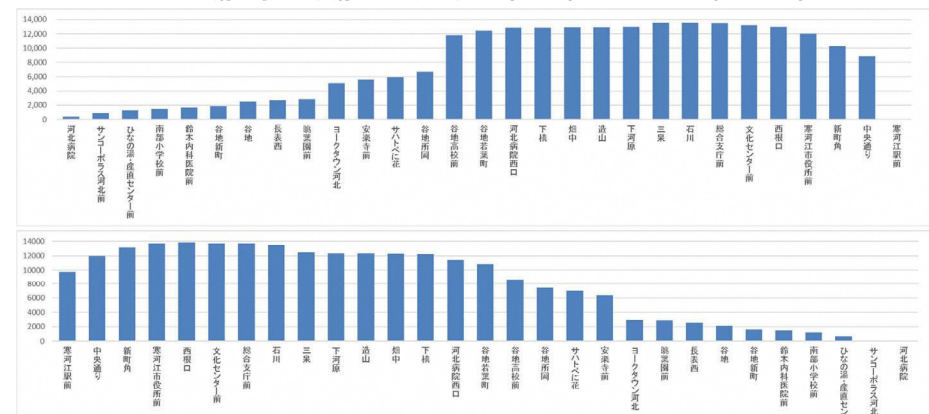
河北町の公共交通

- ◆山交バスの路線バス
- ◆町営バス（5路線、定員9名のワゴン車）
- ◆べにのすけタクシー（タクシー利用助成）
- ◆タクシー（町内1事業者）
- ◆その他
 - 東根市市民バス
 - 村山市市営バス
 - スクールバス・スクールタクシー
 - イオンモール天童無料シャトルバス 等



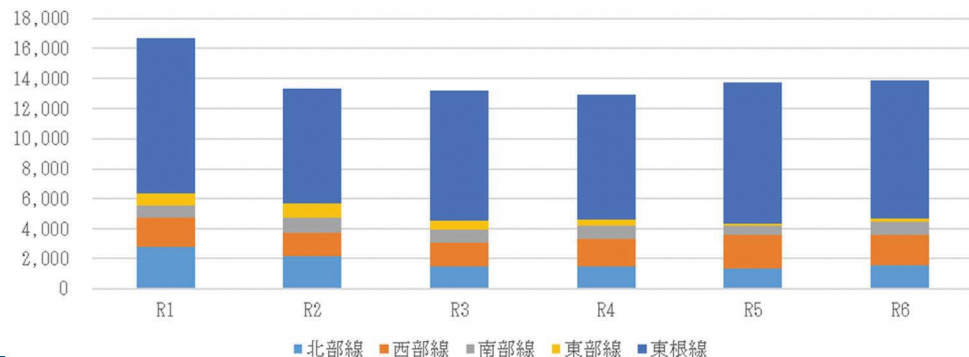
山交バスの利用状況（河北病院～寒河江駅前）

当該バス停から次バス停までの通過人員（2023年4月1日～2024年3月31日）



町営バスの利用状況①

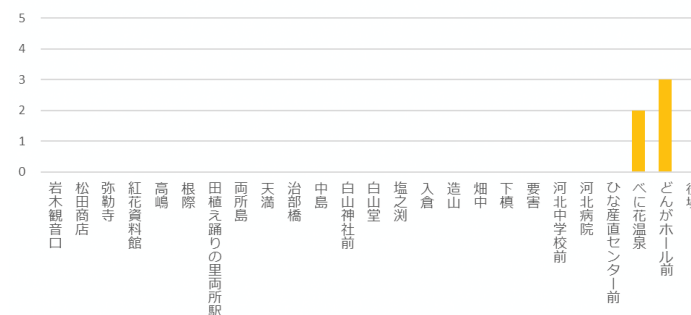
- ◆以前から少ない利用者数が、コロナ禍でさらに減少し回復しない。
- ◆一方、東根線は1台で輸送しきれない場合もある（増便で対応）。



町営バスの利用状況②

- ◆路線や便によっては、ほとんど利用がない場合も…

西部線 1 便



当該バス停から次バス停までの通過人員（2025年6月9日～6月13日の5日間）

町営バスの利用状況③

◆路線ごとの1人あたりコスト（円）

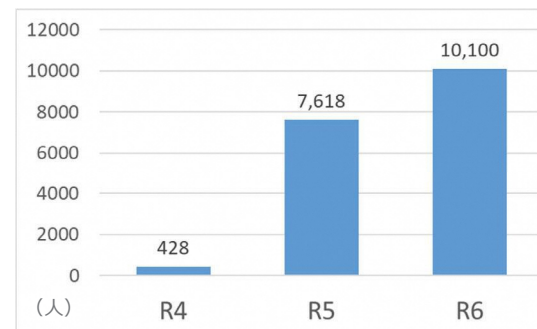
	北部線	西部線	南部線	東部線	東根線	合計
令和5年度	2,944	1,177	2,572	7,958	847	1,241
令和6年度	3,126	1,629	2,074	6,324	1,070	1,515

- 平均金額は、中部運輸局管内で792円、東京都多摩地域で1,239円、全国調査の事例で1,938円
- 2,000円を超える路線は、見直しも必要か？

べにのすけタクシーの利用状況

◆高齢者・障がい者が対象のタクシー利用助成

- 令和4年は3か月間の試行運行、利用者数は増加傾向



・1人当たりのコスト（円）

	合計
令和4年度	1,250
令和5年度	1,118
令和6年度	1,111

河北町のおでかけ（移動）の現状

◆生活

- 日常的な買い物や通院は、**町内（谷地地区内）で完結**
- しかし、谷地地区内での施設間移動はしづらい

◆通学

- 高校生の通学手段が不十分、**土休日はほぼ不可能**
 - ▶町内高校生だけでなく、谷地高校に通う町外高校生も
- クルマ送迎による保護者への負担（中高生ともに）

河北町が考えている今後の方向性

◆谷地高校生と町内在住高校生の通学手段確保

- 令和8年度～9年度にかけて、速やかに対応

◆学校・病院の統廃合に合わせた移動サービスの見直し

- 小中学生の通学手段、移転後の病院へのアクセス
- 町民の生活を支える公共交通への見直し・改善

◆「移動」に関して町全体で取り組むべき**向こう5年間の方向性**を「地域公共交通計画」として示す